

地域社会への貢献

地域社会のいのちと健康を支える

テルモグループは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、本業を通じて患者さんや医療従事者に貢献するとともに、良き企業市民として、社会貢献活動を推進しています。医療の普及・発展への支援を中心に、各国・各地域の社会や文化・環境への理解を深め、コミュニティからの期待・要請を踏まえた活動を推進することで、持続可能な社会の実現への貢献を目指します。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策への支援

テルモグループでは、COVID-19対策への支援として、これまでにテルモが事業を展開する世界各地で合計400万米ドル以上の寄付・寄贈を行いました。体温計や心肺補助システム(ECMO)などの自社製品を医療機関に寄贈するとともに、「WHOのための新型コロナウイルス感染症連帯対応基金」など複数の団体に対して寄付を実施してきました。

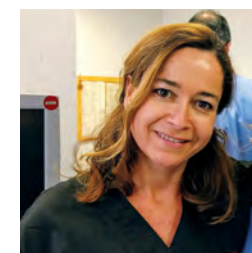
「WHOのための新型コロナウイルス感染症連帯対応基金」は、2020年3月に設立され、WHO財団(WHO Foundation、本部：スイス・ジュネーブ)が幹事財団を務めています。各国の企業や個人から寄せられた寄付金は、世界保健機関(WHO)が取り組むCOVID-19対策に充てられ、ワクチンや検査器の研究、感染拡大防止教育や医療物資の供給、さらに喫緊の社会課題となっているワクチンの公平分配活動や、治療、診断・検査、個人防護具の供給や保健システム強化などに貢献しています。テルモは同基金に対し、2020年、2021年に計200万米ドルの寄付を実施しました。

テルモのグループ会社であるテルモヨーロッパ社では、COVID-19の影響により医療機関が切迫するなかで、医師や看護師などの資格を持つアソシエイトが医療現場でのボランティア活動に従事できるよう、有給でボランティア活動に参加できる制度を導入しました。この制度を活用し、欧州各国で臨床や医療のスキルを持つアソシエイトたちが、病院や高齢者施設などでボランティア活動に参加し、医療現場の活動を支援しました。



スペインの市民保護局でボランティアを行ったアソシエイト

市民保護局のボランティアメンバーとして、COVID-19に罹患した方のために薬を届けたり、高齢者のために買い物に行ったりするなどの支援を行いました。私がこの活動を始めた理由の一つは、一人暮らしをする私の母の近所には私の兄弟が住んでいて、幸いにも、彼らが母を支えることができたためです。同じような状況にありながら、家族の助けを得られない人たちがいることを知り、ボランティアに参加することを決意しました。



スペインの病院で医療支援を行ったアソシエイト

私のボランティアとしての仕事は、血管カテーテル治療を待っている患者さんや、自宅で療養されている患者さんに電話をかけ、様子を聞き、治療開始までの待機期間に耐えられるだけの勇気を与えることでした。患者さんは皆、電話をかけてきてくれたことにとても感謝してくださいました。



新型コロナウイルスに対するテルモの取り組み
<https://www.terumo.co.jp/covid-19/>

地域社会への貢献

地域社会のいのちと健康を支える

世界各国での献血活動

テルモの血液・細胞テクノロジーカンパニーは、血液製剤化技術、アフエーシス治療、細胞処理技術におけるグローバルリーダーです。当カンパニーでは、血液の持つ可能性を信じており、今以上に患者さんに貢献できると考えています。その信念がイノベーションを促し、顧客との協力関係をより強めることにも寄与します。そのような考えのもと、世界中のアソシエイトが輸血治療への貢献を目指すとともに、献血を促進する活動に継続的に取り組んでいます。

血液・細胞テクノロジーカンパニーは、2021年1月より、グローバルに社内献血を推進するプログラム「From the Heart」をスタートさせました。安全でアクセス可能な血液の持続的な供給に貢献すべく、1年間に6,000人のアソシエイトから献血協力を得ることを目標としています。また、同僚や友人、家族などに広く献血を啓発することも本プログラムの活動の一つであり、そのために必要なツールをアソシエイトに提供します。さらに、多くの献血協力が期待できる、地域での献血活動も後援・支援します。



献血や献血啓発活動に参加する各国のアソシエイト



グローバル社内献血推進プログラム「From the Heart」のロゴ

インドで先天性心疾患の子どもたちの早期診断を支援

先天性心疾患 (Congenital Heart Disease : CHD) は、生まれつき心臓や心臓周囲の血管の構造に異常がある病気の総称です。インドでは新生児1,000人に対し約9人がCHDであるといわれており、乳児の主な死亡原因の一つとなっていますが、早期に診察を受けて発見されることで約9割が治療可能とされています。

テルモグループの子会社で、心臓外科手術に使用される人工肺などを販売しているテルモインド社では、バンガロールを拠点とするNGO法人Aishwarya Trustと協力し、子どもたちのCHDを検査で発見するスクリーニングキャンプと外科的治療を必要とする子どもたちのサポートを実施しています。

2020年度は、COVID-19の影響で、アソシエイトの安全性やリソースの確保について懸念があったため、アソシエイトがスクリーニングキャンプを直接支援することはできませんでした。その代わりにテルモインド社は204万インドルピーをAishwarya Trustに寄付しました。この寄付は、Aishwarya Trustが実施した25回のスクリーニングキャンプと、恵まれない子どもたちやハイリスクの子どもたち2,584人へのスクリーニング、CHDと診断された子どもたち74人への外科的治療を行うための資金として活用されました。



スクリーニングキャンプの様子

一般の方を対象とした「テルモ・メディカルセミナー」を開催

テルモは、創立100周年を迎えることを機に、一般の方を対象とした「テルモ・メディカルセミナー」を2021年3月に開催しました。患者さんやそのご家族などを対象に、最新の知見も入れた適切な医療情報を発信し、病気の予防・早期発見・早期治療・重症化防止の重要性を伝えることを目指しています。

今回は2型糖尿病をテーマに、国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター長の植木浩二郎先生に、患者さんの状況やライフステージに合わせた適切な治療についてご講演いただき、オンデマンド形式で配信しました。今後も年1回を目処に定期的で開催する予定です。医療に関わる企業として、これからも、患者さんや医療従事者をはじめ、広く社会にとって価値ある取り組みを推進し、人々の健やかで豊かな未来の実現に向けて貢献していきます。



セミナーのスライド(抜粋)